



居住者様にていねいに 寄り添っていききたい

私どもセコムフォート株式会社は、セコム株式会社のセキュリティ事業をベースとした「安全・安心」の考え方のうえに、在宅医療・訪問看護といった医療系サービスのノウハウならびに10年を超える有料老人ホーム経営のノウハウを重ね合わせて、2006(平成18)年10月に介護付有料老人ホーム「コンフォートガーデンあざみ野」を開設しました。

開設にあたり私たちは、誰にとっても平等に訪れる「老い」という、そのきわめて当たり前のことにむやみに逆らうのではなく、それを自然に受け入れながら、居住者様が一日一日、一年一年を「安全・安心・快適」に過ごしていただけるようサポートしていきたい、と願いながら「コンフォートエイジング」という言葉を理念として掲げました。

5000坪の敷地と3000坪の庭園や、広々として明るい廊下に代表される癒しの空間、季節感とアクセントを感じていただいている毎月のさまざまなアクティビティ、栄養・カロリー等に気を使いながら心を和ませる料理「コンフォートフード」の提供、体調がすぐれないときや介護が必要になったときにも、看護師・介護職員が、併設されたクリニックや近隣の提携病院と連携をとりながらサポートできる体制等々の環境を整えています。このように、自立の状態から看取りまで、まさに「終の住処」として、同じ建物内で暮らしていただけるようにさまざまな仕組み・工夫をしており、将来にわたり理念を風化させることなく、かつ、さまざまな変化に対応しながら居住者様お一人おひとりに寄り添い続けてまいる所存です。

一方、超高齢社会を迎えている日本。東京オリンピックが開催される2020(平成32)年には、総人口1億2410万人のうち65歳以上の高齢者人口が3612万人(総人口の29.1%)に達することが予測されています。介護を必要とする方々が現状より増加していくことは言を俟たないところだと思います。

こうした状況のもとで、私は現在も、そしてこれからも「終の住処」を標榜する各事業者が忘れてはならないことのなかに、「多様性への対応」「真面目な継続性」があると考えています。居住者様のお一人おひとりが望んでいることは、けっして画一的なものではありません。また、短期的なものでもありません。長期間にわたり真面目にていねいに寄り添い、取り組んでいく必要があると思っています。

高齢者住宅経営者連絡協議会も昨年度、「終身にわたり、尊厳ある暮らしを支える」という理念を採択し、今年度はそれを表現するロゴマークを策定し、高経協の目的・事業内容を広くお伝えする取り組みを始めています。高経協のホームページには、「今、伝えたい、終の住まいの役割」をテーマに、平成25年5月に実施したシンポジウムの概要を掲載しています。社会福祉法人世田谷社会福祉事業団特別養護老人ホーム蘆花ホーム医師である石飛幸三氏による基調講演「平穏死～自然な最期の迎え方」や、会員事業者によるパネルディスカッション「看取りについて」「社長の本音トーク」の概要から、業態を超えて真摯に取り組んでいる事業者の一面をお伝えできればと思っています。

今後もこうした高経協の取り組みをお伝えすることにより、居住者様の多様性への対応に、真面目に継続的に取り組んでいる事業者が多々いることを、広くみなさまにご理解いただきたいと思います。

坂本明

さかもと・あきら

●PROFILE

セコムフォート株式会社代表取締役社長。高齢者住宅経営者連絡協議会広報部会長。

